

平成26年3月(2014年) No.579

このまま、盛会続きでありますように… 今月も15本の作品で大忙しの司会者

一般の映像クラブが、会員の高齢化に伴い、会員数の減少、例会作品の少なさ等で、会の運営そのものの課題を抱えている現状のなかで、私たちのOMCも将来的には同じ傾向にあるとはいえ、このところ例会出席者数、上映本数ともまずまずの盛会が続いておりうれしい限りです。会員諸氏が元気で撮影に、編集に取り組んでおられる証でもあります。2月例会も12～14分の作品を含めて15本の作品が出品され、司会者も大忙しで時間を気にしておられました。出品作はオールBDで時代だなあと実感します。今月の作品の中には、今秋の発表会作品候補が早くも出てきました。

例会作品を一本ずつ司会者を中心に会員の感想や助言を求めたりして、もう少しゆっくりした進行をすすめたいものですが、そうなると12本程度の本数が限界になってきます。しかし、せっかく作ったのだから早く皆さんに見て貰いたいと思うのも当然で、できるだけ出品作品全部を上映してあげたいという思いも一方ではあります。多くの作品が作られるというのはうれしいことではありませんか。

わがOMCニュースは、長年今のスタイルでやってきました。即ち、一作ごとに担当書記が丁寧に作品の内容や助言、講評を綴っておられます。

今の時代でこんな手間のかかる会報を発行しているクラブは数少ないことでしょう。まさにアナログの世界です。ですが、例会の司会の時間が短か過ぎるのをカバーしている面があることや、欠席者でもどんな作品が上映されたかを知ることができます。書記役は世話役の持ち回りで年2回の担当です。例会記録は全てテープに録画しており、改めてそれを見ながら記事を書くしくみになっており、この方式を今後も続けていきたいと考えております。今後も大いに作品づくりに、そして例会を楽しんでいきましょう。(合原)

3月例会のおしらせ

3月例会は第4土曜 22日午後6時より難波市民学習センターにて開催します。月一回の例会です。皆で集まって楽しく例会を過ごしましょう。よかったら2次会の方へもどうぞ。

2月例会レポート

今年の冬も寒さが厳しく関西でも積雪が2回あり、関東では日常生活に影響を及ぼす大雪になりました。寒かったので桜の開花が気になるところですが、どうやら平年並みのようです。

今月の司会は上田氏、書記、前田氏、上映担当、井上、河合の両氏、映像記録、江村氏、受付兼照明係は華岡、宮崎両氏の担当で進行しました。

■出席者：有村、井上、上田、江村、岡本、上総、紙本、河合、蟹江、黒田、合原、進藤、関、高瀬、華岡、西村、野田、前田、宮崎、森下、森口、森田、山本、吉村、渡辺の25氏。

■作品上映：今月の講評は前田世話役です
1. あびこ道車庫 (BD)

前田茂夫 8分52秒

平成16年にアマチュア用世界初のビクターHDVカメラで撮影したもの。仕様は720Pで今のAVCTDの1080iに比べると見劣りしますが、当時一般的なDVフォーマットに比べたら格段に精細で大変驚いたものでした。阪堺線あびこ道駅に隣接する車庫の一番奥にまで入れてもらって撮影したものです。長年に亘りトラバーサーは使われた形跡はありませんでした。

2. 「孫娘達の思い出」(BD)

有村博 8分12秒

平成19年11月に撮影された女の子二人のお孫さんの七五三参りを写したホーム記録ビデオ。「もーええわ！」の副題が付いていました。可愛い孫さん二人の髪結いから着付けの準備から克明に撮られています。初めは神妙にカメラに収まっていたが、神社からお寺へ場所を変え更に撮影を進めていきますが、そこはまだ子供、だんだんに飽きてきてモデルを嫌がるようになります。それをまた克明に記録しようとビデオをまわす作者。下の孫がひょうきんな表情に変わっていくの見ていて微笑ましくなりました。このような子供の成長記録は二度と撮れないだけに貴重な家族の記録になっています。終わりに近づくと副題の意味がよくわかるような表情や仕草を見せてくれました。大きくなった時は家宝の一つになることでしょう。

3. カウナスと十字架の丘 (BD)

華岡汪 8分30秒

リトアニアはバルト三国の中で一番南に位置する小国です。カウナスはリトアニア国のほぼ中心にある街で先月持参された首都ヴィリニウスに次いで大きな街のようです。映像は旧市街に存在する有名建築物を取り上げながら進展します。その中から杉原記念館にスポットが当たります。杉原千畝は「東洋のシンドラー」とも呼ばれる外交官で、第二次世界大戦中、ナチスドイツによって迫害されていた多くのユダヤ人にビザを発給し、約6000人以上の亡命を手助けしたことで知られています。映像は更に続いて「十字架の丘」に移ります。ロシア、ソ連によって占領された国民は蜂起しますが何度も失敗し丘はソ連のブルドーザーによって破壊され焼払われました。しかしリトアニア人は夜陰にまぎれて十字架を持ち寄ったといわれています。作者はこの夥しい十字架を見て人間の尊厳について深く考えさせられたと結んでいます。

4. わが街泉北冬 (BD)

山本正夢 10分40秒

いつも海外ものを持参される作者ですが、今回は珍しく国内ものを作って持参されました。お住まいの周辺の町の風物を克明に撮られたわが町の歳時記といえる作品です。出だしの紅葉の自然描写から始まってクリスマスイブの情景、餅つき、除夜の鐘、初詣…等々の沢山の情景で綴られています。場面転換では作者の鋭い感覚で撮った朝焼けの風景はこれまでの作品の中で何度もみせてもらったような情景描写が美しく印象的です。場面転換でFO→FIが使われますが、カット繋ぎの方がいいでしょう。FOの時点で「あっ終わりかな」と誤解される恐れがあります。

5. だんじり in 大阪城 (BD)

野田邦雄 7分30秒

昨年11月3日に大阪城公園広場で行われただんじりの大集合祭りを撮ってこられました。今回で3回目のまだ回数の浅い祭りであり知られていないようです。今回は城東区から10台、生野区から2台、鶴見区1台、東大阪市2台と全15台が集まったそうです。おらが町の自慢のだんじりを持ち寄って自慢しあう微笑ましい祭りです。上田司会者いわく、大阪東部から平野にかけては上(かみ)のだんじり、岸和田など泉南各地のだんじりは下(しも)のだんじりと云うそうです。確かにだんじりの

大きさも違い、牽き方、廻し方、お囃子も大きく違います。地方それぞれの違いがあって見物する者からはバラエティーに富んでいて異なった面白みを感じました。上のだんじりには天満天神さんの流れを引継いで「龍踊り」が盛んに踊られていました。

6. 出石そば打ち体験と竹田城 (BD)

上田吉巳 14分00秒

町内会有志で一泊旅行した記録です。出石の町を散策し、そば道場にてそば打ちを体験されます。打ち方を教わってそば粉を練っていきます。練ったらこねて、次は麺棒で伸ばしていきます。こねたり、練る行程では手の垢も付いて「隠し味になる」といって笑わせます。直ぐに茹でていただくのかなと思ったら、昼食に出されたのはプロの打ったそばでした。自分達で打ったそばは持ち帰るお土産になったのでしょうか。出石散策の次は竹田城に移りました。この1～2年で劇映画やテレビドラマに盛んに登場するようになって城址は大変な混雑ぶりです。日本のマチュピチュとか云ってメディアで宣伝されると一度にこの有様。素晴らしい史跡をどのように保存し開放していくか大きな課題を突きつけられていると思います。同行者へ配るのにはもっと長く20分以上でもいいのですが、例会用には10分位の作品と2本作ったらいかがでしょうか。

7. 智頭急行各駅下車の記(第1編) (BD)

紙本 勝 13分30秒

山陽本線の上郡～智頭を結ぶ56kmの第三セクター方式の株式会社で単なるローカル線ではなく山陽と山陰(鳥取方面)を結び特急が走る重要な路線になっています。途中駅は全14駅で、今回作者は全駅を途中下車し走破する計画を立てられました。その第1回目で上郡から苔縄、河野原円心、の二駅に行かれました。作者の凄いところは途中下車して、近くの山城に登って歴史を紐解いてこられることです。新しい形の紀行作品を作られました。二つ目の河野原円心駅を下車し、白旗山(440m)にある白旗城跡へ向かいます。石がごろごろした登山道で体力を相当消耗したと思います。いつもながらの作者の健脚ぶりに只々脱帽するばかりです。歩く途中で見た特急「はくと」や普通列車の走行シーンが見られるのはこれまでの紙本作品と違って親しみを感じました。次回以降の作品の完成が

待ち遠しい感じ です。

8. 2011 YOSAKOI 夜の部 (BD)

江村一郎 7分30秒

作者お得意のよさこい祭りの作品です。今回は2011年度よさこい夜の部とされています。よさこいは踊り手は変わっても、基本形は変わらないので撮影する度に、どのように編集しどの様な点をアピールするかさぞ苦心されることと思います。今回はタイトルの登場に工夫がされています。いつもは美人女子の踊り子の登場が多いと思ったのですが、今回はイケメン男子の登場が目につきました。それと終わりのブルー効果も新たな編集方針なのでしょうか。いつもながらボケのないアップの迫力とカット繋ぎの巧みさに感心させられます。

9. おらが祭さ (BD)

河合源七郎 8分37秒

能登キリコ祭りの第12編目の作品だそうです。昨年10月に出品された「キリコ海へ」の続編でしょうか。今回はノンナレーションで制作してこられました。住吉神社に末社の神輿と太鼓が参集してきます。やがて八幡本社の神輿が登場し祭りの主役が揃います。本宮は神輿が主役になります。境内に沢山の神輿がそろい、互いに練りあって祭りは最高潮を迎えます。夕方から夜に移るとキリコの登場です。本宮でキリコが登場するのは能登でも一部だそうです。夜の街に神輿や太鼓、キリコが練り出し街は一層華やかになりました。祭りはまだまだ続くそうで続編「後の宴」に続きます。能登のキリコ祭りをずいぶん沢山撮られ拝見したので、能登のどの町の祭りが判らなくなりました。最初に地図で場所を明示して欲しいものです。

10. 阿比太神社節分祭 (BD)

進藤信男 10分36秒

箕面市桜ヶ丘にある延喜式内阿比太神社でご祭神は素盞鳴尊とありました。格式が高い神社とお見受けしました。地図で調べたら住宅地のど真ん中に立地しています。映像で見るとどこかの町外れの神社かなと思いました。鎮守の森に囲まれた素晴らしい環境にあります。2月3日の節分を撮られた作品ですが、何故か行事は修験道の大護摩焚きから始まります。神仏混交の神仏の名残を残しているのでしょうか。大護摩が終って邪気・鬼を祓う火渡り神事を済ませた氏子達には福豆が渡され家庭一

家の安寧を願います。このようにして作品は終わりを迎えますが、作者は氏子達の願いがひしひしと伝わってきましたとの言葉で結んでいます。日本人の素朴な信仰心を感じさせてくれる作品でした。

11. 花傘総参宮 (BD)

森口吉正 9分50秒

京都伏見区にある御香宮神社の神幸祭です。毎年10月初旬に行われるようです。神幸祭は10/5～13日まで9日間も行われる大きな祭です。早朝より一年に一度、御香宮大神様が、氏子区域内を『幸(みゆき)』(巡幸)される祭です。この祭の特徴はお迎え提灯として、各町内より『花傘』が神社に多く参拝するのが有名で、別名『花傘まつり』とも称せられています。花傘は室町時代の『風流笠』の伝統を今に伝えるものだそうです。夜になると花傘の一行がやってきて神社まで町内を練り歩きます。子供用の小さな花傘から大人が担ぐ大きなものまでいろいろあります。花傘は上下に激しく振って取り付けてある鈴を鳴らし景気づけます。室町時代から伝わる伝統と由緒ある祭で私たちが知らない大小の祭が京都にはまだまだ沢山あるようです。

12. ハイタッチギネス挑戦 (BD)

渡辺雄史 6分50秒

ギネスブック記録には想像も付かないような奇妙な記録があるようで、今回のハイタッチ記録もそのようなものの一つでは、と思いました。セレッソ大阪のサッカー選手が実行します。なるほど足が速くてすばやい人でないとダメですね。結果は2回やって両方とも成功しましたが、2回目が187回でこれが世界記録(現記録は171回)になるそうです。それにしても何でもギネス世界記録とかいってイベントを企画するのはいかがなものかなと思います。まずはおめでとうございました。

13. 妥女祭 (BD)

宮崎紀代子 7分20秒

奈良時代に天皇の寵愛をうけた采女(女官の職名)が、天皇の関心が薄れたことを悲観し猿沢池に入水した霊を慰めるために始まったという慰霊の祭。中秋の名月の日に行われます。JR奈良駅前から猿沢池のほとりに建つ采女神社まで花扇奉納行列が行われこの祭りがスタートします。花扇とは秋の七草で美しく飾られた高さ2mほどの物で、昭和28年に作られ采女祭で用い

られるようになりました。御所車に乗った十二単姿の花扇使、姉妹都市福島県郡山市から参加してもらっているミスうねめ、ミス奈良などが天平衣装を着て練り歩きます。猿沢池の周りは提灯で飾られ幻想的な雰囲気の中に管弦船が浮かべられ池の中ほどに花扇が献じられ采女の霊をなぐさめます。幻想的でロマンティックな祭を上手く纏められています。大変結構な作品でした。暗闇の中での撮影で止むを得ず明度を上げていますが、明度を上げたらコントラストも上げると明暗のバランスが取れます。

14. 鳥羽の火祭 (BD)

高瀬辰雄 13分20秒

愛知県西尾市の鳥羽神明社で2月第2日曜日に行われる天下の奇祭といわれています。映像を拝見してその意味が判りました。高さ5m直径2m～3mの「すずみ」という大松明に仕込まれた神木(枝のついた生木)と十二縄を燃え盛る炎の中から取り出して神前に供えます。まず昼の間に締め込み姿の神男達は海で禊をして、夜の祭に備えます。神火がつけられてすずみが激しく燃え盛る頃を見計らって、神男達が燃える「すずみ」に登って神木を取り出そうとします。火に接近し火の粉を被り、すずみを切り裂いて神木を取り出すのは大変危険ですが一番迫力あるシーンです。全身に火を被り神衣にも火がつかますが周囲から水を掛けられ何とか無事に終わります。この間の迫力は凄く正に火と神男とのたたかいといっているでしょう。すずみの燃え具合によってその年の天候や豊凶を占うそうです。素晴らしく迫力ある作品で映写会候補作品に一番に推薦されることでしょう。

15. ランタンフェスティバル (BD)

蟹江利一 12分20秒

中国の旧正月を祝う春節祭を期限とする長崎の冬の風物詩です。長崎に住む華人が中華街を中心に開いていた春節祭が長崎市全体の大きなイベントとなりました。その後三頭の龍踊りが披露されます。一頭は成年男子の大きい青い龍、別の二頭は地元女子高生の操る龍です。ひとしきり踊って帰るとき、「もってこい」と大きく叫ぶとまた戻ってきて舞ってくれます。こうして掛け声に呼び戻され3度戻って舞ってくれました。雨乞い祈願祭の意味があるそうで、神戸中華街の春節祭と比べてさすがに大陸に近く大規模な祭でした。